

# 「学校に行くつらさ理解を」

不登校テーマ  
福山で講演会

不登校を考える講演「の」が5日、福山市西カウンセラーの内田良子さんの講演会「子どものころと親のころをつなぐも」の市男女共同参画センターであった。心理並区Ⅱが講師を務め、不登校を選ぶ子どもの権利を訴えた。



不登校を選ぶ子どもの権利を訴える内田さん

内田さんは「今夏も夏休み明けの前後で、小中高生の自殺が相次いだ」と指摘。原因に「いじめなどの存在を挙げ「学校に行くことがどれほどつらいのか私たちは再確認しなければならぬ」と呼び掛けた。

不登校経験がある男性や保護者によるパネルディスカッションもあり、市民約50人が聞き入った。

子ども居場所づくりを進める同市神島町の市民グループ「フリースペース旅遊」(貝原尚子代表)が主催した。(武内宏介)

## 自転車ライフ健康的でエコ

福山で講演

福山市立女子短大生活学科の宮本賢作講



約40人が聴講した。

宮本講師は、市が市民43人の協力を得て昨年10月から9カ月間実施した自転車モニター事業の成果を分析。走行距離の合計が6万6436キロに上ったことを紹介し「同じ距離を車で走った場合と比べて、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を15リットル削減した」と報告した。

また、自転車を楽しく乗ることとして①水分補給②乗車前後のストレッチ③紫外線対策④冬場の保温対策の有効性を説いた。

動物を観察して絵を描く子ども

動物愛護週間(20~26日)を前に、福山市立動物園子ども写生大会(中国新聞備後本社主催)が5日、同市芦田町の同園であった。強い日差しに汗をぬぐいながら、中学生までの約450人が四つ切り画用紙に向かった。ソウやペンギン、フラミンゴなど気に入った動物をじっくり見詰め、絵の具やクレヨンでのびのびと描いた。

## じっくり観察 しっかり写生

福山市立動物園



同市駅家町下山守、宜山小5年梅沢友香さん(11)は「ニホンザルの顔がかわいい。赤い顔と茶色い毛を丁寧に描きたい」と筆を動かしていた。

特別賞と金賞に選ばれた作品は25日から10月17日まで、同園に展示する。

(伊藤敬子)